Report
［査読無し］　報 告

韓国高齢者における老人福祉館活用理由と主観的幸福感との関連

Association between reasons for activities at the welfare centers for the elderly and subjective well-being in South Korea

金　美辰
大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科

Mijin Kim
Department of Human Welfare, Faculty of Human Relations, Otsuma Women's University
2-7-1 Karakida, Tama-shi, Tokyo, 206-8540 Japan

キーワード：韓国高齢者，老人福祉館活用理由，主観的幸福感
Key words：Elderly people in South Korea, Reasons for activities at the welfare centers, Subjective Well-being

抄録

韓国の老人福祉館は，地域高齢者の拠点施設として多様な社会活動の場となっている．高齢者の社会活動は主観的幸福感と関連し，主観的幸福感が高い場合，介護予防行動を引き起こすとされることから，地域高齢者の社会活動の場である老人福祉館活用理由と主観的幸福感との関連を明らかにすることを目的とした．調査対象は，韓国大丘広域市の老人福祉館 5 か所の利用者 603 名とした.老人福祉館活用理由と主観的幸福感との関連を重回帰分析した結果，「ボランティア活動」「生活にメリハリができるから」「スポーツ・運動」「音楽」「その他」が主観的幸福感と関連していた．利用者が主体的に活動に参加する取り組みは，正に健康を実感するための取り組みであり，主観的幸福感と関連していると推察される．

Ⅰ. 研究背景・目的

韓国の老人福祉館は，老人福祉法第 36 条（老人余暇福祉施設）第 1 項 1 号に「老人の教養，趣味生活及び社会参加活動等に対し，各種情報とサービスを提供し，健康増進及び疾病予防と所得保障，在宅福祉その他老人福祉増進に必要な総合的な老人福祉サービスを提供する施設」と規定される．1981 年に老人福祉法が制定され，1982 年の老人福祉法施行令及び施行規則において老人福祉会館の運営根拠が示された．その後，1989 年の老人福祉法一次改正で老人福祉余暇施設の概念が導入され，老人福祉館は老人余暇施設として分類された．2004 年の老人福祉館運営指針において老人福祉館の機能が初めて規定されて現在の運営基準に整備され，2007 年の老人福祉法改正で「老人福祉会館」が「老人福祉館」に名称変更[1]された．

保健福祉部の老人福祉施設現況[2]（2021 年 12 月現在）によると，老人福祉館は全国で 357 ヶ所ある．そのうち，韓国老人総合福祉館協会に会員登録している老人福祉館は 329 ヶ所で会員は 250 万人[1]である．老人福祉館の主要事業として「生涯教育や趣味・余暇活動支援事業」「健康生活支援事業」「相談支援事業」「社会参加支援事業」「地域連携・協力事業」「高齢者の雇用や所得支援事業」[1][3]が挙げられる．

韓国では，2008 年に誕生した長期療養保険制度下に「介護予防事業」がなく，同制度下での「介護予防事業」の必要性が指摘されている[4][5]．長期療養保険制度下に介護予防事業が存在しない韓国では，老人福祉館が地域高齢者のニーズや地域の特徴を踏まえた介護予防の拠点として地域高齢者の生活を支えている[3]．深堀ら[6]は，高齢者の主観的幸福感が高い場合，介護予防行動を引き起こすとしている．また高齢期の社会活動は，主観的幸福感と関連しており[7]，高齢者の身体機能維持や主観的幸福感の維持・向上に影響する[8]とされる．石井[9]は，主観的幸福感は，QOL の主観的あるいは心理的側面であり，野村[10]は，高齢者が自らの人生や生活に抱いている充足感を示す概念であるとしている．このように主観的幸福感は高齢期の

充実を捉える指標である．高橋ら[11]は，余暇活動タイプが多彩型であることが主観的幸福感を高める方向へ影響しており，多彩に余暇活動に取り組むことは主観的幸福感を高めると指摘している．さらに，国の政策も高齢者が社会参加し，生きがいや役割意識を持つことにより，高齢者本人が自発的に介護予防行動をとることを促す方向に転換しつつある[12]．

そこで本研究では，介護予防の側面としての老人福祉館活用理由と高齢期の充実感の指標である主観的幸福感との関連を明らかにすることで，超高齢社会に向けた韓国社会における老人福祉館の役割と機能を明確にすることを目的とした．

Ⅱ．研究方法

1. 調査対象

韓国大丘広域市にある老人福祉館 5 か所の利用者を対象とした．大丘広域市の高齢化率は 15.1%と，全国平均高齢化率 15.1%と同率である（2019 年 5 月現在）[13]．

2. 調査方法

大丘広域市にある老人福祉館館長に調査依頼を行い，回答書に承諾の得られた施設に電話で確認を行った．その後，調査対象である 5 か所の老人福祉館を訪問し，老人福祉館館長に本研究の目的を文書と口頭で説明し，同意を得た．老人福祉館 5 か所のソーシャルワーカーから老人福祉館利用者に口頭で研究の目的について説明してもらった．調査への参加は任意であることを説明し，了解の得られた 65 歳以上の老人福祉館利用者を対象とし，「老人福祉館活用理由」と「主観的幸福感」に関する質問紙を用いて留め置き法で 2019 年 8 月に調査を実施した．

3. 調査内容

調査内容は先行研究[14]を踏まえ，「基本属性」と「老人福祉館活用理由」「主観的幸福感」に関する項目を設定した．基本属性は韓国老人保健部「老人実態調査」基本属性を参考に，年齢，配偶者の有無，同居家族，最終学歴について尋ねた．「老人福祉館活用理由」は，質的研究データ[14]に基づき，「スポーツ・運動」「音楽」「パソコン・語学」「習字・囲碁・将棋」「老人福祉館紹介の仕事」「ボランティア活動」「才能寄付」「世代間交流」「新聞・テレビを見る」「友達と一緒に過ごせること」「老人福祉館にいられること」「生活にメリハリができるから」「その他」の 13 項目を設定し，複数回答法で回答を求めた．

「主観的幸福感」の評価尺度は，佐藤[15]の先行研究を踏まえ，LSIA 尺度[16]を用いて，「あなたの人生は他人に比べて恵まれていると思いますか」「若いときと同じように幸福だと思いますか」「あなたの人生を今よりももっと幸せにする方法があったと思いますか」「これまでの人生で今が一番幸福だと思いますか」「自分のしていることのほとんどが退屈なことだと思いますか」「これから先何か良いこと楽しいことがあると思いますか」「あなたが今していることは昔と同じようにおもしろいことだと思いますか」「年をとって少し疲れたように感じますか」「あなたの人生を振り返って満足できますか」「もし過去を変えられるとしたらあなたは自分の人生をやり直したいと思いますか」「これまでの人生であなたは求められていたことのほとんどが実現できたと思いますか」の 11 項目を設定し，「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの 5 段階評定で回答を求めた．

日本語で作成された質問紙を著者が韓国語に翻訳し，調査を実施した．

4. 分析方法

分析は主観的幸福感に関する 11 項目について因子構造を明らかにするために探索的因子分析（最尤法,プロマックス回転）を行った．その後，主観的幸福感に影響を及ぼす変数を検討するために，主観的幸福感尺度を目的変数とし，説明変数は老人福祉館の利用で役に立っていると感じることに関する「スポーツ・運動」「音楽」「パソコン・語学」「習字・囲碁・将棋」「老人福祉館紹介の仕事」「ボランティア活動」「才能寄付」「世代間交流」「新聞・テレビを見る」「友達と一緒に過ごせること」「老人福祉館にいられること」「生活にメリハリができるから」「その他」の 13 項目で重回帰分析（ステップワイズ法）を行った．すべての統計分析には統計解析ソフト IBM SPSS Statistics 26 を用いた．

5. 倫理上の配慮

調査実施にあたっての倫理上の配慮は，大妻女子大学生命科学倫理委員会に審議を依頼し承認を得た（承認番号 2019-021）．調査依頼及び実施時に調査協力の任意性，調査の中で知り得た一切の情報の保護やその管理・破棄方法，調査結果の利用・

公表方法について文書および口頭にて説明を行い，同意の得られた老人福祉館の利用者を対象とした．研究実施に係わる試料・情報を取扱う際は，研究対象者の個人情報とは無関係の番号を付して管理し，研究対象者の秘密保護に十分配慮した.研究の結果を公表する際は，研究対象者を特定できる情報を含まないようにし，研究の目的以外に研究で得られた研究対象者の試料・情報を使用しないこととした．

Ⅲ．結果

1. 調査対象者の属性

調査の結果，603 名から協力を得ることが出来た．対象者の基本属性および老人福祉館利用に関する回答内容を表 1 に示す．

表 1　調査対象者の属性（N=603）

		人数	(%)
性別	男性	259	43.2
	女性	341	56.8
年齢	65歳から69歳	109	18.1
	70歳から74歳	200	33.3
	75歳から79歳	137	22.8
	80歳から84歳	120	20.0
	85歳以上	35	5.8
配偶者の有無	いる	411	68.3
	いない	191	31.7
同居家族	独居(離婚)	4	0.7
	独居(別居)	10	1.7
	独居(未婚)	2	0.3
	独居(死別)	125	21.2
	夫婦のみ	356	60.3
	子ども(未婚)と同居	53	9.0
	子ども(既婚)と同居	32	5.4
	その他	8	1.4
最終学歴	無学	16	2.7
	小学校	108	18.0
	中学校	169	28.1
	高校	202	33.6
	短期大学卒業以上	106	17.6
老人福祉館活用理由	スポーツ・運動	388	64.9
	音楽	178	29.9
	パソコン・語学	34	5.7
	習字・囲碁・将棋	100	16.8
	老人福祉館紹介の仕事	38	6.4
	ボランティア活動	71	11.9
	才能寄付	39	6.6
	世代間交流	16	2.7
	新聞・テレビを見る	58	9.7
	友達と一緒に過ごせること	234	39.3
	老人福祉館にいられること	173	29.0
	生活にメリハリができるから	120	20.1
	その他	12	2.0

性別は「男性」が 259 名（43.2%），「女性」が 341 名（56.8%）であり，年齢は「70 歳から 74 歳」が 200 名（33.3%）と最も多く，「85 歳以上」が 35 名（5.8%）で最も少なかった．老人福祉館活用理由は「スポーツ・運動」が 388 名（64.9%）で最も多く，次いで「友達と一緒に過ごせること」が 234 名（39.3%），「音楽」が 178 名（29.9%）であった．主観的幸福感 11 項目に関する記述統計量を表 2 に示す．

表 2　主観的幸福感 11 項目の記述統計量

	人数	平均値	標準偏差
あなたの人生は他人に比べて恵まれていると思いますか	589	2.28	0.81
若いときと同じように幸福だと思いますか	589	2.36	0.93
あなたの人生を今よりもっと幸せにする方法があったと思いますか	589	2.57	0.97
これまでの人生で今が一番幸福だと思いますか	588	2.35	1.01
自分のしていることのほとんどが退屈なことだと思いますか	583	3.54	1.08
これから先何か良いこと楽しいことがあると思いますか	584	2.51	0.98
あなたが今していることは昔と同じようにおもしろいことだと思いますか	585	2.39	0.97
年をとって少し疲れたように感じますか	584	2.58	0.99
あなたの人生を振り返って満足できますか	589	2.44	0.97
もし過去を変えられるとしたらあなたは自分の人生をやり直したいと思いますか	589	2.67	1.19
これまでの人生であなたは求められていたことのほとんどが実現できたと思いますか	590	2.60	1.01

2. 尺度化の確認

主観的幸福感に関する 11 項目ついて因子構造を明らかにするために探索的因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行った．スクリー法により 2 因子構造が妥当と判断された．しかし，第 2 因子に負荷する項目が 2 項目のみだったため，第 1 因子の因子負荷量が .40 以上の 8 項目による合計点を用いて主観的幸福感得点とした（表 3）．Cronbach's α 係数は .869 であった（表 4）．

表 3　探索的因子分析の結果

因子負荷量		
項目	F1	F2
若いときと同じように幸福だと思いますか	.753	−.030
今が一番幸福だと思いますか	.716	−.115
求められていたことのほとんどが実現できた	.711	.035
人生を振り返って満足できますか	.698	.006
他人に比べて恵まれていると思いますか	.688	.008
昔と同じようにおもしろいことだと思いますか	.636	−.001
何か良いこと楽しいことがあると思いますか	.613	.079
もっと幸せにする方法があったと思いますか	.573	.110
ほとんどが退屈なことだと思いますか	−.055	.842
年をとって少し疲れたように感じますか	.025	.427
自分の人生をやり直したいと思いますか	.164	.308
固有値	4.284	1.492
因子間相関 F1	1.000	0.158
因子間相関 F2		1.000

因子抽出法: 最尤法　回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表 4　主観的幸福感の記述統計量

	項目数	N	M	SD	α
主観的幸福感	8	603	3.47	0.82	.869

3. 老人福祉館の活用理由に関する項目との重回帰分析

主観的幸福感に影響を及ぼす変数を検討するために，主観的幸福感尺度を目的変数とし，老人福祉館活動理由に関する項目を説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を行った．その結果，調整済み R^2 は .050 と 0.1%水準で有意であった．標準偏回帰係数（β）は活用理由（ボランティア活動），活用理由（生活にメリハリができるから）,活用理由（スポーツ・運動），活用理由（その他），活用理由（音楽）で正の有意な値を示し（β はそれぞれ .114, .112, .113, .112, .108, いずれも p<.01），ボランティア活動やスポーツ・運動，生活のメリハリ，その他，音楽が老人福祉館活用理由になっている人ほど主観的幸福感が高いことが明らかとなった（表 5）.

表 5　主観的幸福感に対する重回帰分析の結果
（N=603）

説明変数	β	
活動理由（ボランティア活動）	.114	**
活動理由（生活にメリハリができるから）	.112	**
活動理由（スポーツ・運動）	.113	**
活動理由（その他）	.112	**
活動理由（音楽）	.108	**
調整済み R^2	.050	***

*：p<0.05　**：p<0.01　***：p<0.001

Ⅳ．考察

本研究の目的は，老人福祉館活用理由と主観的幸福感との関連を明らかにすることである．韓国の老人福祉館利用者を対象に，老人福祉館活用理由と主観的幸福感の関連を重回帰分析で検証した結果,「ボランティア活動」,「生活にメリハリができるから」,「スポーツ・運動」,「音楽」,「その他」の 5 つの項目が抽出された.

「スポーツ・運動」は老人福祉館の活動で 64.9%の利用者が老人福祉館活用理由と回答しており，最も高い割合であった．また「生活にメリハリができるから」は利用者の 20.1%が老人福祉館活用理由と回答している.「スポーツ・運動」と「生活にメリハリができるから」について，柴田[17]は，高齢者は運動機能も低下するので，高齢者では運動機能によるうつや記憶障害を引き起こす可能性があると指摘しているが，運動による体内時計同調効果の近年の研究[18]によると，朝や夕方の運動は時計を前進させるが，遅い夜の運動は後退させることから，老人福祉館の日中活動における運動は生活リズムの改善に影響を与え，さらにそれが主観的幸福感に影響を与えているものであると考えられる．さらに柴田[17]は，ストレスは体内時計を強力に乱すので，アルツハイマー病に対する強制運動がストレスになるようでは逆効果になる可能性を考える必要があるとも指摘しており，利用者の心身の状態によっては運動時に配慮が必要であると推察される. 老人福祉館活用理由である「スポーツ・運動」は，強制的ではなく，自分の好きな時間に自分の好きな「スポーツ・運動」を選んで実施できる老人福祉館の利用者の自主性と自由参加に基づくプログラム利用システムが影響され，主観的幸福感を高めることにつながっていると推察される.「音楽」の活動について，関谷ら[19]は，引きこもりになりがちな高齢者が集う楽しさを見つけ，集団の中で音・音楽を媒介して社会性や協調性が養われることが，快感情とリラックス感得点が高まったことにつながり，不安感の軽減になったと考えられる.「音楽」活動を通したこのような感情の改善は身体的健康と心理的健康につながっていく可能性が高いと示唆している．本調査結果でも，約 3 割の利用者が老人福祉館活用理由を「音楽」と回答しており,「音楽」を通して他の利用者との交流を深めることで感情が改善されることで主観的幸福感に影響を与えたことが示唆された.「ボランティア活動」について，李[20]はボランティアの活動時間と健康は曲線的変化がみられ，ボランティア活動時間が長いほど健康状態における影響は弱まり, 活動時間と健康との検討により，年間 52 時間（週 1 回）超の活動を行うことが健康に有効であるとされ, 適度に「ボランティア活動」を通して社会参加することが主観的幸福感を高める上では重要であると考えられる.「ボランティア活動」について，国民の健康づくりの指針である健康日本 21 の中で，「ボランティアやサークルなどの地域活動を積極的に実施」することの重要性が提唱されるように，高齢期においては積極的に社会参加をしていくことが主観的幸福感を良い状態に保つことにつながると考えられ，その社会参加の目的の一つとして「ボランティア活動」が有効であると考えられる.

急激に高齢化が進展する韓国において，老人福

祉館は高齢者の介護予防を担う地域の拠点施設としての役割を担っている. 老人福祉館では, 教育, 趣味や余暇活動などの様々なプログラムが提供され，利用者が自らプログラムを選択し，参加することができる．世界保健機関（WHO）[21]は健康教育の考え方として，健康教育活動の方法は，従来から活用されてきた他者依存型で専門家を主導とした方法から脱皮しなくてはならないとしており，利用者が主体的に活動に参加する取り組みは正に健康を実感するための取り組みであると考えられる．本調査の結果では「ボランティア活動」は主観的幸福感との関連性はみられたが，利用者の11.9%が老人福祉館活用理由と回答していることから，利用者自身には実感されにくいことが示唆されている．しかし高齢者を対象とした「ボランティア活動」が利用者自身の主観的幸福感にどのような影響を与えるか，その意義を示すうえで有益な基礎研究であり，老人福祉館における社会活動の有効性と社会参加としての「ボランティア活動」を推進することの一定の科学的根拠が得られたと考えられる. また, 重回帰分析の結果では「その他」の項目が抽出されていることから，本調査の調査項目以外の老人福祉館活用理由についても質的研究との組み合わせにより，今後さらに探求することが必要であると考える.

謝辞
本研究は大妻女子大学戦略的個人研究費（課題番号 S1915）の助成を受けた研究の一部である.

引用文献
[1]韓国老人総合福祉館協会. http://www.kaswcs.or.kr/pdf,（参照 2022-1-15）.
[2]保健福祉部老人福祉施設現況. http://www.mohw.go.kr/upload/viewer/skin/doc.html?fn=1659326544776_20220801130224.xlsx&rs=/upload/viewer/result/202303/（参照 2022-2-15）.
[3]金美辰.大丘広域市老人福祉館の多彩な事業内容を通した地域高齢者への支援.人間関係学研究. 2019, 20, p.51-62.
[4]キムヒョンドクほか．老人長期療養保健制度施行 6 年の問題点と発展方案．社会科学．2013, 22, p.282-296.
[5]ジョチュヨンほか．老人長期療養保険と地域資源の活用方案に関する研究.韓国ケアマネジメント研究．2009, 2, p.27-162.
[6]深堀敦子ほか．地域で生活する健常高齢者の介護予防行動に影響を及ぼす要因の検討．日本看護学会誌．2009, 29(1).
[7]浜崎優子ほか．地方中核都市における高齢者の社会活動と幸福感に関する研究（第 2 報）: 後期高齢者の主観的幸福感の関連要因．北陸公衆衛生学会誌．2007, 33(2), p.86-91.
[8]Steinbach Unsocial Networks, institutionalize, rationally mortality among elderly people in the United States, Journal of Gerontolog1992, 47(4), p.183-190.
[9]石井留美．主観的幸福感研究の動向．コミュニティ心理学研究．1997, 1, p.94-107.
[10]野村千文．「高齢者の生きがい」の概念分析．日本看護科学会誌．2005, 25(3), p.61-66.
[11]高橋成仁ほか.高齢者の余暇活動と主観的幸福感に関する研究．土木計画学，2015, 32, p.567-576.
[12]岡元真希子．主観的幸福感と交流に着目した高齢者の介護予防の方向性 JRI レビュー，2019, 7(68), p.1-32.
[13] 高齢人口比率．KOSIS 国家統計ポータル https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1YL20631,（参照 2019-5-30）.
[14] 金美辰,老人福祉館利用地域高齢者の社会活動と継続利用に関する研究.人間福祉学会誌.2019, 19(2), p.35-42.
[15]佐藤サツ子.「在宅高齢者の主観的幸福感とソーシャルサポートの関連性」本赤十字秋田短期大学紀要．2000, 5, p.11-19.
[16]田原康玄ほか. 日本板 LSIA の因子構造モデルの検討．東京保健科学学会誌．2000, 3(1), p.33-37.
[17]柴田重信.高齢者の生活リズムと健康時間栄養・運動学からの視点．介護予防・健康づくり. 2019, 6(1), p.26-30.
[18]Youngestedt SD et al.: Human circadian phase-response curves for exercise. JPhysiol. 2019, 597, p.2253-2268.
[19]関谷正子ほか．音楽活動と身体活動がデイサービス通所者の健康づくりに与える影響．札幌大谷大学短期大学部．2008, 38, p.13-18.
[20]李相侖．ボランティア活動が都市部高齢者の主観的健康感および活動能力に及ぼす影響：ボランティアの活動時間を用いた 3 年間の縦断研究．東京大学学位論文．2012.
[21]WHO : New approaches to health education in primary health care. World health Organization Technical Report Series. 1983 ,690, p.7-9.

Abstract

The purpose of this study was that, association between reasons for activities at the welfare centers for the elderly and Subjective Well-being in South Korea. In the method of study, five facilities that are the welfare centers to the elderly cooperated with these surveys. The target group consisted of a total of 603 people who used these facilities. The results revealed that the following items were associated with subjective well-being: “volunteer activities,” “establishment of a rhythm in daily life,” “sports/exercise,” “music,” and “others.” Initiatives of the welfare centers for the elderly, in which the elderly people voluntarily participate, help them to be aware of their health, representing the role played by the centers as bases for long-term care prevention.

（受付日：2023 年 5 月 11 日，受理日：2023 年 6 月 13 日）

金　美辰（きむ　みじん）
現職：大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科教授

専門は社会福祉学.
現在は「高齢者の社会活動を通した介護予防」と「外国人介護人材への支援」に関する研究を行っている.